

July 20, 2021

【前日の為替概況】ドル円、米 10 年債利回り 1.1723%まで低下で 109.07 円まで下落

19日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は109.46円と前営業日NY終値(110.07円)と比べて61銭程度のドル安水準だった。新型コロナウイルスで感染力の強いインド型(デルタ株)の感染が拡大し、景気回復に水を差すとの見方から投資家のリスク回避姿勢が強まり、円買い・ドル売りが優勢となった。米長期金利の指標である米10年債利回りが節目の1.20%を割り込み、一時1.1723%前後まで低下したことも相場の重しとなり、109.07円と5月27日以来の安値を付けた。7月NAHB住宅市場指数が80と予想の82を下回ったこともドル売りを誘った。

ただ、5月27日の安値109.04円や節目の109.00円がサポートとして働くと買い戻しが優勢に。0時30分過ぎに一時109.58円付近まで下げ渋った後、NY午後は109円台半ばで値動きが続いた。

なお、ダウ平均は一時940ドル超下落したほか、ナイト・セッションの日経平均先物は前日終値比540円安の2万7060円まで売られる場面があった。

ユーロドルは小幅ながら3日続落。終値は1.1800ドルと前営業日NY終値(1.1806ドル)と比べて0.0006ドル程度のユーロ安水準だった。新型コロナ変異株の感染拡大への懸念や、原油など商品価格の下落を背景に、投資家のリスク・オフムードが強まりユーロ売り・ドル買いが先行。前週末のドイツやベルギーを襲った洪水の被害状況が深刻で、欧州株相場が急落したことも相場の重しとなり、21時30分前に一時1.1764ドルと日通し安値を更新した。

ただ、米長期金利が急低下すると次第にユーロ買い・ドル売りが優勢に。ユーロ豪ドルやユーロポンドなどユーロクロスの上昇につれた買いも入り、23時過ぎには一時1.1824ドルと日通し高値を付けた。もっとも、買い一巡後はじりじりと上値を切り下げている。

ユーロ円は反落。終値は129.12円と前営業日NY終値(129.95円)と比べて83銭程度のユーロ安水準。米国株価の大幅下落で、投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ユーロ売りが優勢となり、23時過ぎに一時128.89円と日通し安値を付けた。ただ、ユーロクロスが上昇するとユーロ円にも買い戻しが入り、129.31円付近まで下げ渋る場面があった。

産油国通貨は軟調だった。WTI原油先物価格が急落したことを背景に産油国通貨に売りが集まった。メキシコペソは対ドルで一時20.0950ペソ、対円で5.45円までペソ安に振れたほか、カナダドルは対米ドルで一時1.2807カナダドル、対円で85.43円まで値を下げた。

WTI期近8月限は時間外取引で一時8.6%超下落する場面があった。「石油輸出国機構(OPEC)プラス」が18日、協調減産の段階的な縮小で合意したことを受けた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、NY株下落と米10年債利回り1.2%割れで続落か

本日の東京外国為替市場のドル円は、NY株安を受けたリスク回避の円買いと米10年債利回りの1.2%割れを受けたドル売りで軟調推移が予想される。

8月の円高アノマリーに向けて、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大、原油価格の下落、米中対立激化への警戒感、8月1日の連邦債務上限の復活と財政の崖への警戒感など、IMM通貨先物の投機部門の円売り持ちポジション(※7月13日付けの円売りネットポジション:56250枚)を解消させる円買い材料が目白押しとなりつつある。

8時30分に発表される6月のコア消費者物価指数は前年比+0.2%と予想されている。5月のコア消費者物価指数は前年比+0.1%となり、14カ月ぶりにプラスに転じていた。上昇の要因としては、原油価格の上昇を背景にした電気代やガソリンなどエネルギーがプラス方向に寄与したことによる。6月の消費者物価指数は、エネルギーを除いた場合の予想が前年比-0.2%なので、6月もエネルギー価格の上昇を受けたプラスのインフレ率が予想されている。リスクシナリオは、6月のコア消費者物価指数が予想を下回った場合で、インフレ期待の低下を受けて円高要因となり、円売り持ちポジションの手仕舞いに拍車がかかる可能性に要警戒となる。

本日のドル円のオーダー状況は、上値には、110.20円から111.10円にかけて断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、109.00円、108.50円、108.00円にドル買いオーダーが控えている。

ドル円のテクニカルポイントは、日足一目均衡表・雲の上限の109.55円を軸に、上値抵抗線が一目・転換線の109.89円、下値支持線が雲の下限の109.12円となっている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 6月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比 0.2%）
- 08:30 ☆ 6月全国 CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比▲0.2%）

<海外>

- 10:30 ◎ 7月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨
- 15:00 ◇ 6月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比 1.1%）
- 16:30 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演
- 17:00 ◇ 5月ユーロ圏経常収支（季節調整済／季節調整前）
- 21:30 ◎ 6月米住宅着工件数（予想：159.0 万件、前月比 1.2%）
◎ 建設許可件数（予想：170.0 万件、前月比 1.0%）
- シンガポール（ハリラヤハジ）、トルコ（犠牲祭）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

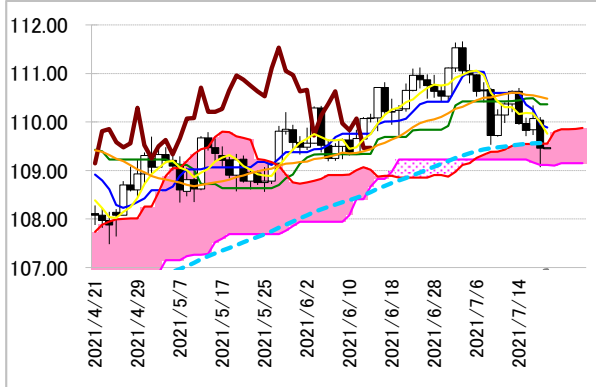
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

19 日の金融市場では、要人の発言は特になかった。

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

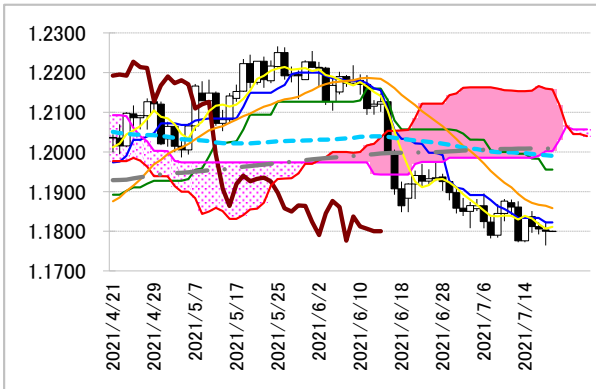


<ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	109.89(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	109.46
サポート1	109.12(日足一目均衡表・雲の下限)
サポート2	108.56(5/25 安値)

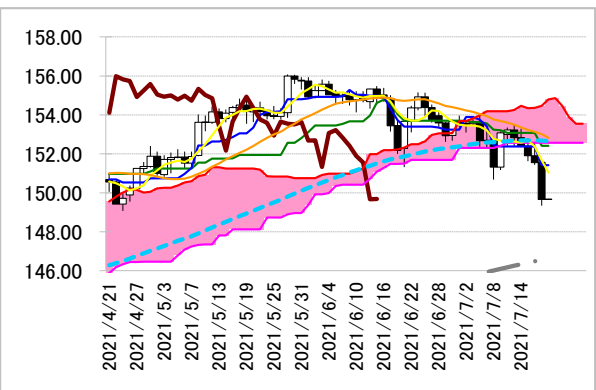


<ユーロドル=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陰線下落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1956(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1800
サポート1	1.1764(7/19 安値)

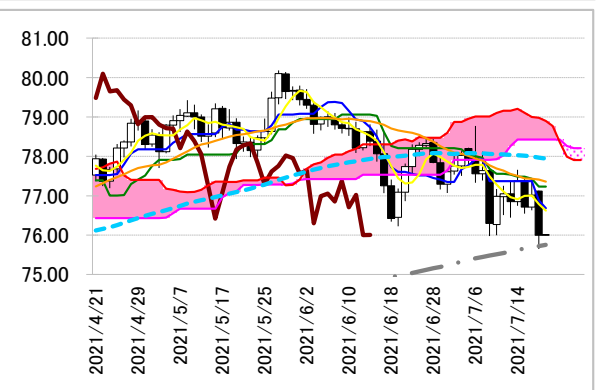


<ポンド円=7/8 安値を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線下落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、7月8日の安値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	150.67(7/8 安値)
前日終値	149.67
サポート1	149.06(4/23 安値)



<NZドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。抱き線で下落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	76.68(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	76.00
サポート1	75.33(2/5 安値)

